

園長だより「音読あそび」第33号

今、万博が大阪で開催されています。皆さんの中にもすでに行ってきましたという方もおられるのではありませんか。ご存知のように日本で万国博覧会が開かれるのは2回目です。1970年、大阪千里丘陵で「人類の進歩と調和」をテーマにして万国博覧会が開催されました。今の万博とは比較できないほどの大盛り上がりで、国内だけでなく、世界中からたくさんの方々が来場しました。中学生だった私は会期中に何度も何度も足を運んでいたものです。今は跡地に「太陽の塔」が遺されているだけで、その当時の大盛り上がりの雰囲気を感じることはできません。

ゆめ組の子ども達と「音読あそび」を始めました。小学校の国語科学習では1年生から取り組む学びの一つです。小学校のお子さんをお持ちの保護者の方は毎日、宿題としてお子さんの音読を聞いて、音読カードにサインをしておられるでしょう。

なぜ「音読」なのでしょう。文章や詩を声に出して読むことで黙読で理解できなかった文章や詩が理解しやすくなります。声に出して読むことで頭が整理されるのです。高学年になれば朗読という読み方を目指します。文章や詩の行間にある感情や表現をより深く理解し、それを声の大きさや抑揚などで表現することが求められます。ただ、就学前のお子さんにそこまで求める必要はありません。音（オノマトペ）やリズム、アクセントなどを楽しめばいいのです。私自身もゆめ組の子ども達と一緒にあそび感覚で楽しもうと思っています。時間設定は朝の会と考えています。音読は脳を活性化させます。朝一番、脳を活性化させることでその日の学習効果が高まるのが科学的にも実証されています。音読の効果は毎日継続することで最大化します。ゆめ組の先生方とは最終的に朝の会のルーティンの一つとして取り組めればいいねと話しています。

ゆめ組の子ども達が初めて取り組んだのは山村暮鳥の「鶏」です。

うちの にわとり こけこっこ
となりの にわとり こけこっこ
だんだん あかるく なってきた
みなさん おはよう こけこっこ
そうら、 おひさま でてきたぞ

お子さんによって個人差はありますし、一朝一夕に上手にはなりません。でも継続していくことが大切です。暗記を目的とはしていませんが、お家でも暗記した詩を披露してくれるお子さんもいるかも知れません。上手に読めなくても絶対に叱らないことが大切です。「大きな声が出ていたね」「リズムが良かったね」「しっかり口を動かしていたね」等と具体的にお子さんを褒めていただければ最高です。